

国立国語研究所学術情報リポジトリ  
米国議会図書館蔵『源氏物語』特殊表記による和歌  
一覧

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 神田, 久義, 豊島, 秀範 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002605">https://doi.org/10.15084/00002605</a>

# 米国議会図書館蔵『源氏物語』特殊表記による和歌一覧

神田 久義・豊島 秀範

米国議会図書館蔵『源氏物語』の特徴のひとつに、和歌を一行内で分かち書きのように表記するという、特殊な書写様式が挙げられる。

とは言え、すべての和歌がこの特殊な表記法で書写されているわけではない。この表記法による和歌は、12巻「須磨」、13巻「明石」、14巻「瀬標」、20巻「朝顔」、22巻「玉鬘」、24巻「胡蝶」、25巻「蟹」、28巻「野分」、29巻「行幸」、44巻「竹河」、46巻「椎本」、51巻「浮舟」、52巻「蜻蛉」の、計13の巻に偏在しており、また、その総数は62首のみに留まる。

何故「く一部の和歌だけにこの特殊な表記法が用いられているのか、その原因を究明することは、『源氏物語』本文の享受の一端を明らかにすることに他ならない。このような意識のもとに、豊島秀範には「アメリカ議会図書館本の和歌表記の特徴—和歌の一行散らし書きを中心に—」(『國學院大學大学院平安文学研究』第一号。二〇一〇年九月)の論考が、神田久義には「米国議会図書館本『源氏物語』の書写形態に関する一試論」(豊島秀範編『源氏物語本文の研究』。文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)「源氏物語の研究支援体制の組織化と本文関係資料の再検討及び新提言のための共同研究」、課題番号[19202009]、二〇一一年三月)の論考がある。上記の論考では、

和歌の表記法との関わりに、豊島は物語内容や書写者の本文理解を、一方、神田は複数の書承段階を想定した。

両者の意見に違いが見られるように、この写本の和歌の表記法については、いまだ解明されていない部分も多く、今後の更なる研究が望まれる段階にある。本稿では62首全ての特殊な表記法による和歌の画像を掲載した。今後の研究の一助となれば幸いである。

## 謝 辞

画像の撮影および掲載について、米国議会図書館から許可を頂きました。御尽力いただきました米国議会図書館アジア部日本課の伊東英一氏・中原まり氏・PIPER.Y 清代氏に感謝申し上げます。

## 凡例

I、和歌には物語内での出現順に1～62までの通し番号を付した。

II、和歌の一覧は以下のように構成した。

(i) 第一行目には、通し番号、巻名・丁数と表裏の別・行数、和歌に関する簡単な説明を記し、「」内に新編日本古典文学全集『源氏物語』①～⑥での該当ページ数を示した。

(ii) 第二行目には、該当部分の写本の画像を示した。

(iii) 第三行目には、翻刻本文を示した。

III、翻刻本文は以下の通りに作成した。

(i) 漢字は新旧・異体字を問わず、通行のものに改めた。

(ii) 変体仮名は通行の仮名に改めた。

(iii) 写本での字配りを再現するよう努めた。

1. 須磨 7才5 光源氏から紫の上への贈歌 [②巻 173頁]



翻刻 身はかくてさすらへぬと 君があたり もさらぬかゝみの かけは はなれし

2. 須磨 8才6 花散里から光源氏への贈歌 [②巻 175頁]



翻刻 月かけのやとれる 袖は とめても せはくとも 見はや あかぬひかりを

3. 須磨 10才2 光源氏から藤壺への返歌 [②巻 180頁]



翻刻 わかれしにかなしき いとは つきにしを 又そ いの世の うさはまされる

4. 須磨 10才9 右近の将監から光源氏への贈歌 [②巻 181頁]



翻刻 ひきつれて あふひのかさし そのかみを おもへはつらしかもの みつかき

5. 須磨 18才9 光源氏から六条御息所への贈歌 [②巻 195頁]



翻刻 あまかすむ なけきの 中に しほたれて いつまで すまの うらになかめむ

6. 須磨 21才6 光源氏の唱和歌 [②巻 201頁]



翻刻 はつ雁は こひしき人の つらなれや たひの空とふ こゑの かなしき

7. 須磨 28才9 光源氏から宰相中将（かつての頭中将）への贈歌〔②巻215頁〕



翻刻 ふるさとを いつれの  
はるか ゆきてみんうらやま かへる  
しきは 雁金

8. 須磨 28才9 光源氏から宰相中将（かつての頭中将）への贈歌〔②巻216頁〕



翻刻 雲ちかく とひかふ  
たつを 空に見よ わは  
はる日の くもりなき身そ

9. 明石 15才3 光源氏から宰相中将（かつての頭中将）への贈歌〔②巻249頁〕



翻刻 いふせくも こゝろに  
物を なやむかな やよや  
いかにと とふ人  
もなみ

10. 明石 15才9 9の歌に対する明石の君から光源氏への返歌〔②巻250頁〕



翻刻 おもふらむ こゝろの  
ほとや やよいに また見ぬ きゝか  
人の なやまむ

11. 明石 19才9 明石の君から光源氏への返歌〔②巻257頁〕



翻刻 あけぬ夜に やかて  
まとへる こゝろには いつれを わきて  
かたらん ゆめと

12. 明石 20才3 光源氏から紫の上への贈歌〔②巻259頁〕



翻刻 しほ／＼と まつそ  
なかるゝかりそめの みるめは すさひ  
あまの なれとも

13. 明石 20 ウ 6 12. 対する紫の上から光源氏への返歌 [②巻 260 頁]



翻刻 うらなくも おもひけるかな ちきりしを まつより なみは こえし 物そと

14. 明石 24 オ 7 光源氏から明石の君への返歌 [②巻 267 頁]



翻刻 あふまでの かた見に ちきる 中のをの しらへは かはら ことに さらなん

15. 明石 24 ウ 3 明石の君から光源氏への返歌 [②巻 267 頁]



翻刻 年へつるとまやも あれで うき浪のかへる 身をたくへ まし

16. 明石 25 オ 6 光源氏から明石の君への返歌 [②巻 269 頁]



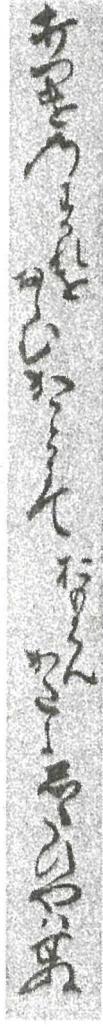
翻刻 かたみにも かふへ かりける あふことの 日かす へたてん 中のころもを

17. 澄標 6 オ 10 光源氏から宣旨の娘 (明石の姫君の乳母)への贈歌 [②巻 288 頁]



翻刻 かねてより へたてぬ 中と ならはねは わかれは おしき 物にそありける

18. 澄標 6 ウ 2 17の歌に対する宣旨の娘から光源氏への返歌 [②巻 288 頁]



翻刻 打つけの わかれを おしむ かことにて おもはん かたに したひやはせぬ

19 澄標 7 ウ 2 明石の君から光源氏への返歌 [②巻 290 頁]



翻刻ひとりして なつるは ほとなきに おほふ はかりの かけをし そまつ

20 澄標 8 ウ 3 紫の上から光源氏への贈歌 [②巻 293 頁]



翻刻思ふどちなひく あらす われそ さきたち かもに けふりに なまし

21 澄標 8 ウ 5 20の歌に対する光源氏から紫の上への返歌 [②巻 293 頁]



翻刻たれに よをうみ ゆき たえぬ うきしつ より 山に めぐり なみたに む身そ

22 澄標 10 オ 5 明石の君から光源氏への返歌 [②巻 296 頁]



翻刻数ならぬ みしま かくれになくたつを けふも とふ人 いかにと そなき

23 澄標 15 ウ 9 明石の君から光源氏への返歌 [②巻 307 頁]



翻刻数ならぬ なにはの ことかひなきを なと身を おもひ つくし そめけん

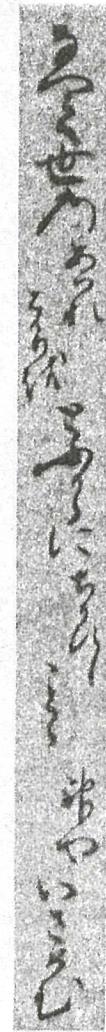
24. 露標 16才 3 23. の歌を受けた光源氏の独詠歌 [②巻 307頁]



翻刻 露けさのむかしに  
にたる旅衣たみのゝ名には  
かくれす

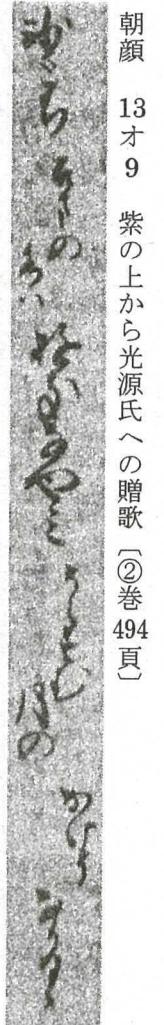
翻刻 露けさのむかしに  
にたる旅衣たみのゝ名には  
かくれす

25. 朝顔 3ウ 4 朝顔の前斎院から光源氏への返歌 [②巻 474頁]



翻刻 なへて世のあはれ  
はかりをとふからにちかひし 神や いさめむ

26. 朝顔 13才 9 紫の上から光源氏への贈歌 [②巻 494頁]



翻刻 氷とち 石まの  
水は ゆきなやみそらすむ かけそ なかるゝ

翻刻 かきつめて むかし  
恋しき 雪もよに あはれを  
月の そらすむ かけそ  
月の なかるゝ

27. 朝顔 13ウ 3 26の歌に対する光源氏から紫の上への返歌 [②巻 494頁]



翻刻 かきつめて むかし  
恋しき 雪もよに あはれを  
月の そらすむ かけそ  
月の なかるゝ

翻刻 かきつめて むかし  
恋しき 雪もよに あはれを  
月の そらすむ かけそ  
月の なかるゝ

28. 玉鬘 21才 8 光源氏から玉鬘への贈歌 [③巻 123頁]



翻刻 しらすともたつねて みしま おふる  
しらん えに みくりのすちは  
たえしを

翻刻 しらすともたつねて みしま おふる  
しらん えに みくりのすちは  
たえしを

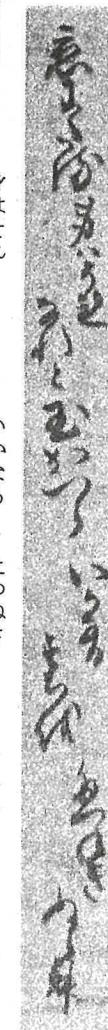
29. 玉鬘 22才 3 28の歌に対する玉鬘から光源氏への返歌 [③巻 124頁]



翻刻 数ならぬみくりやなにの すち  
なれば うきに ねを  
しもかく とめけん

翻刻 数ならぬみくりやなにの すち  
なれば うきに ねを  
しもかく とめけん

30 玉鬘 25 ウ 7 光源氏の独詠歌 [③卷 132 頁]



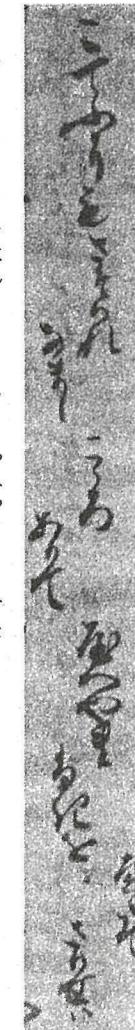
翻刻 恋わたる身はそれなれと玉かつらいかなるすちをぬらむ

31 胡蝶 5 オ 7 紫の上から秋好中宮への贈歌 [③卷 172 頁]



翻刻 花その下草に秋まつうとくさへや見るらむ

32 胡蝶 5 ウ 8 31の歌に対する秋好中宮から紫の上への返歌 [③卷 173 頁]



翻刻 こてふにもさそはれ こうろ やへやま へたで  
なまし ありて ふきを さりせは

33 胡蝶 7 ウ 6 柏木から玉鬘への贈歌 [③卷 177 頁]



翻刻 おもふとも君はわき岩もるいろし見えねは

34 螢 4 ウ 5 玉鬘から螢兵部卿宮への返歌 [③卷 201 頁]



翻刻 こゑはせて身をのみほたるこそいふよりおもひまさるなるらめ

35. 蛻 6才4 猛兵部卿宮から玉鬘への贈歌 [③巻204頁]



翻刻 ふさへや ひく人 みなき みかくれに おふる あやめの ねのみ  
もなき なかれむ

36. 蛻 6才7 35の歌に対する玉鬘から猛兵部卿宮への返歌 [③巻204頁]



翻刻 あらはれて いと あさくも 見ゆるかな あやめも なかれ  
わかす けるねの

37. 蛻 11才2 光源氏から玉鬘への贈歌 [③巻214頁]



翻刻 思ひあまり むかしの たつぬ おやに こそ  
あとを れと そむける たくひなき

38. 蛻 11才5 37に対する玉鬘から光源氏への返歌 [③巻214頁]



翻刻 ふるき跡を たつぬれ なかり この世に おやの  
とけに けり かゝる こゝろは そすれ

39. 野分 10才6 玉鬘から光源氏への贈歌 [③巻280頁]



翻刻 吹みたる 風の をみな しほれし こゝちこ  
けしきに へし ぬへき そすれ

40. 野分 10才10 玉鬘に対する光源氏から玉鬘への返歌 [③巻280頁]



翻刻 下露になひかま をみな あらき しほれ  
しかは へし 風には さらまし

41 野分 12才7 夕霧から雲居雁への贈歌 [③巻283頁]

  
風さはき むら雲  
まかふ夕にも わするゝ わすられ  
まなく ぬ君

翻刻 風さはき むら雲  
まかふ夕にも わするゝ わすられ  
まなく ぬ君

42 行幸 4才10 光源氏から玉鬘への返歌 [③巻295頁]

  
うねさす ひかりは くもら なとて  
空に ぬを みゆきに めをきら  
あかねさす ひかりは くもら なとて  
空に ぬを みゆきに めをきら  
翻刻 あかねさす ひかりは くもら なとて  
空に ぬを みゆきに めをきら  
しけん

43 竹河 9才8 薫から藤侍従への贈歌 [⑤巻74頁]

  
たけ川の はし打  
出し 一ふしに たかき  
こゝろの そゝは  
しりきや

44 竹河 14才8 薫から藤侍従への贈歌 [⑤巻84頁]

  
はせうそも はせうそも はせうそも  
はせうそも はせうそも はせうそも

翻刻 つれなくて すぐる かそへ ものうら くれの  
月日を つゝ めしき はるかな

45 竹河 16才9 藏人少将から玉鬘の大君への贈歌 [⑤巻86頁]

  
おもと 美みの おもと 美みの おもと 美みの  
おもと 美みの おもと 美みの おもと 美みの

翻刻 花をみて 春は くらしつけふよりや しけき したに  
なけきの まとはん

46 竹河 16 ウ 9

16  
ウ  
9

45の歌に対する玉鬘の大君から藏人少将への返歌〔⑤卷87頁〕

翻刻けふそしる 空を けしき はなに うつし  
なかむる にて こうろを けりとも

翻刻けふそしる 空を けしき はなに うつし  
なかむる にて こゝろを けりとも

47 竹河 18才7玉鬘の大君から藏人少将への贈歌〔5巻90頁〕

翻刻 あはれてふゝわたらぬ世の 一ひとともいがたるかへる人に 物そ

48 竹河  
18 ウ 2  
47 の歌に対する藏人少将から玉鬘の大君への返歌  
〔⑤卷 91 頁〕

18. 10. 1902. 10. 10. 1902. 10. 10. 1902.

翻刻 いける世の しには こゝろに まかせねは きかてや やまん きみか 一ノト

49. 椎本 4才6句宮から宇治の姫君たちへの贈歌〔5巻 174頁〕

中華人民共和國  
郵政部  
郵政局

翻刻山さくらにほふあたりにたつねきておなしをかさしをおもてけるかな

柏本 4才 10  
49の歌に対する宇治の中の君から匂宮への返歌

翻刻 かさしおる 玉の はるの  
たよりに 山かつのかきねを すきぬ たひ人

51. 椎本 13ウ8 句宮から宇治の中の君への贈歌 [⑤巻 193頁]

翻刻をしかなく 秋の いか こはきか かゝる  
山さと ならむ 露の 夕暮

52. 椎本 14ウ3 の歌51に対する宇治の大君から句宮への返歌 [⑤巻 194頁]

翻刻なみたのみ 霧ふた 山 まかきに もろこゑ  
かれる さとは しかそ になく

53. 浮舟 22オ8 句宮から浮舟への贈歌 [⑥巻 151頁]

翻刻年ふとも かはらむ たち こしまか ちきる  
物か はなの さきに こゝろは

54. 浮舟 22オ10 53の歌に対する浮舟から句宮への返歌 [⑥巻 151頁]

翻刻たちはなの 小嶋は いろも かはらしを このうき ゆくゑ  
雲も まで くるゝ わひしさ

55. 浮舟 25ウ3 句宮から浮舟への贈歌 [⑥巻 157頁]

翻刻なかめやる そなたの 見えぬ そらさへ いろの  
雲も まで くるゝ わひしさ

56. 浮舟 26 ウ 5 薫から浮舟への贈歌 [⑥巻 159 頁]

翻刻 水まさる をちの いか はれぬ かきくら  
さと人 ならむ なかもに すころ

57. 浮舟 26 ウ 10 55・56の歌を受けた浮舟の独詠歌 [⑥巻 160 頁]

翻刻 里の名を わか身に やまし 宇治の いと  
しれは ろの わたりそ すみうき

58. 浮舟 27 オ 3 55の歌に対する浮舟から匂宮への返歌 [⑥巻 160 頁]

翻刻 かきくらし はれせぬ  
みねの あま雲に うきて 身とも  
よをふる なさはや

59. 浮舟 27 オ 7 56の歌に対する浮舟から匂宮への返歌 [⑥巻 161 頁]

翻刻 つれ／＼と 身をしる をやま 袖さへ みかさ  
雨の ねは いとゝ まさりて

60. 浮舟 34 ウ 6 薫から浮舟への贈歌 [⑥巻 176 頁]

翻刻 浪こゆる ころとも  
しらす すゑの松 まさらん おもひ  
とのみ けるかな

61. 蜻蛉 11ウ5 薫から匂宮への贈歌〔⑥巻223頁〕

あらわのひねや きみも  
なくらんかひもなき しての こゝろ  
翻刻 しのひねや きみも  
なくらんかひもなき しての こゝろ  
たをさに かよはゝ

62. 蜻蛉 11ウ8 61の歌に対する匂宮から薰への返歌〔⑥巻223頁〕

あらわのひねや きみも  
なくらんかひもなき しての こゝろ  
翻刻 たちはなの かほる  
あたりは ほどゝきす こゝろ なくへ  
してこそ かりけれ

翻刻